

2023.12.23

第 57 回ソーシャルワーク研究会

藤林慶子、堀米史一

ソーシャルワーク・リサーチの論文の構成

—introduction における国内外の文献（reference）検索方法—

目次

- 資料 1 古谷野亘（2011）よい論文 -量的研究の場合- 介護福祉学 第 18 巻第 2 号 173-181
- 資料 2 大木修一（2014）：看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん 医師薬出版株式会社
- 資料 3 データベース
- 資料 4 堀米史一（2017）介護老人福祉施設における転倒の発生要因・事故防止策・活動参加の取り組みの関連性 社会医学研究第 34 巻 2 号 57-68
- 資料 5 任貞美（2016）高齢者虐待の定義および概念を確立するための研究課題の検討 社会福祉学 第 57 巻第 2 号 15-28

資料 1

古谷野亘 (2011) よい論文 -量的研究の場合- 介護福祉学 第 18 巻第 2 号 173-181 から引用

「研究はふつう漠然とした問題意識や関心を持つことに始まり、結果の公表をもって終わる。研究結果の公表にはさまざまな方法と媒体があるが、原著論文 (original article) として学会誌に掲載されるのが最善の方法である。原著論文とは、original な知見の提供によって、人類共有の知識のストックを増すことに貢献する論文である。」

「実証研究、とくに量的研究の結果を報じる論文は、いわゆる科学論文形式でまとめられる。科学論文形式というのは、『はじめに—方法—結果—考察』という構成をとる論文の形式である。各部分は、それぞれ見出しによって細分される。

科学論文形式は、研究の結果得た実証的な知見を、簡潔かつ正確に読者に伝える方法として生み出されたものである。慣れないと多少の違和感があるかもしれないが、量的研究の結果を報じる論文は科学論文形式でなければならないと思った方がよい。

念のため各部分の意味と書く際の留意点を記すと次のようになる。

(1) はじめに (introduction) : 『はじめに』はその研究 (論文) の意義を明らかにして、その論文がいかにか人類共有の知識の増加に寄与できるものであるかを述べる部分である。研究は、それまでに行われ、発表された他の研究 (先行研究) の成果を踏まえて行われるものであるから、先行研究についての文献考察 (文献レビュー) は、まずこの部分で行われる。先行研究によってなにがどこまで解明され、何が不明のまま残されているのか、何が当面の課題であるのか、また仮説と、なぜその仮説が立てられ、検証されるのかを明瞭に述べておかなければならない。」

漠然とした問題意識や関心を持つことに始まり、結果の公表をもって終わる。

→私の問題意識や関心は周りもそう思っているのか?、先行研究を調べてみる = 文献レビュー

文献レビュー

レビュー (review) = 「再び (re)」 「見る (view)」 = 「見直す」

過去に行われた研究を見直して、批評 (クリティーク) してその概観すること。

文献の持つ意味が学問分野でかなり異なることが前提であるが、広義では研究をする上で参考資料となる文章を文献という。

例) 科学・学術雑誌、新聞、インターネット上のサイト、ブログ等々

資料 2

大木修一 (2014) : 看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん

「査読を受けた結果、内容が適当であると判断され、学術雑誌（電子媒体を含める）で公表される学術的な文書であり、その出典を明確にできるとともに、可能な限り、文献データベースで検索できるもの」

学術雑誌

明確な取り決めはないが、主に学会などの組織で会員向けに専門誌を編集・発行している雑誌などを指す。その他にも商業誌でも審査（査読）付きの研究論文を掲載する場合もある。また大学などの研究機関が発行する紀要という雑誌もある。

論文の種類

学術雑誌によっても種類は様々で、論文、研究論文、原著論文、研究ノート、報告、資料、会議録などがある（一番重視されているのが「原著（Original article）」と呼ばれる論文）。

→original が示すように独創性（originality）の高い論文（新規性があることや新たな知見の発見があるもの）。

その他にも

論文の著者順も分野によって異なる場合もあるが、記載順にも重要な意味がある。

- ・最初にくる著者（第1著者、筆頭著者、ファーストオーサー）・・・一番貢献した人
- ・最後にくる著者（ラストオーサー）・・・指導教授などの場合も

文献レビューの手順

- ① 何を調べたいか明らかにする（用語・キーワードを決定する）
- ② データベースで検索する（シソーラス（＝類語辞典）の活用も参考になります）
- ③ タイトルレビュー
- ④ アブストラクト・アーティクルレビュー

※レビュー論文を探してみるのも一つの手。→形式的な文献レビューは論文にできる。→資料5

医学中央雑誌シソーラス <https://www.jamas.or.jp/database/thesaurus.html>

PubMed [MeSH Database](#)

文献レビューをした結果…、

1 既に研究されていた	2 まだ研究されていなかった
① 信頼に足る研究かクリティーク	① 誰も思いつかないような問題意識や関心だった
② まだ課題が残っていれば改めて研究する意味がある	② どうでも良い問題意識だった
③ もう課題がなければ自分が勉強不足だったと自覚する	③ 取り組みにくい問題だった

資料 3

データベース（契約が必要な場合もあります）

医中誌 Web (<https://login.jamas.or.jp/>)

The screenshot shows the JAMA Web portal. At the top, there is a navigation bar with '医中誌Web', 'シソーラスブラウザ', 'クリップボード', '? HELP', 'お問い合わせ', 'My医中誌', and 'ログアウト'. Below this is a search bar with a dropdown menu set to 'すべて検索' and a search button. A '辞書参照' section includes '収載誌名', '統制語', and '所属機関名'. A '絞り込み条件' section allows filtering by '本文入手' (本文あり, 本文あり(無料)), '抄録' (あり), '論文種類' (原著論文, 解説・総説, 会議録除く), 'OLD医中誌' (限定, 除く), '症例報告・事例' (限定, 除く), '分類' (看護), '副題目' (診断, 治療, 副作用), 'チェックタグ' (小児, 成人, 高齢者), and '発行年' (最新3年分, 最新5年分, 年~年). Below the search area are three recommended content boxes: 'おすすめコンテンツ' with a list of COVID-19 related items, 'JMPA' (日本医書出版協会 書籍検索), and 'CMEC' (CMECジャーナルクラブ).

Cinii Research (<https://cir.nii.ac.jp/>)

The screenshot shows the CiNii Research website. At the top, there is a navigation bar with 'CiNii', '論文・データさがす', '大学図書館の本さがす', '日本の博士論文さがす', '国自大学 ログイン English', and a date stamp '【2023年10月31日掲載】 CiNii Dissertations及びCiNii Books/CiNii Researchへの統合について'. Below this is a large search bar with a 'フリーワード' input field and a '検索' button. Below the search bar are tabs for 'すべて', '研究データ', '論文', '本', '博士論文', 'プロジェクト', and a '詳細検索' dropdown. At the bottom, there is a footer with links for 'CiNiiについて', 'ヘルプ', 'お問い合わせ', 'RSS', 'Twitter', 'CiNii Research', 'CiNii Books - 大学図書館の本さがす', 'CiNii Dissertations - 日本の博士論文さがす', 'メタデータ・API', 'CiNiiのコンテンツサービス', 'KAKEN - 科学研充費助成データベース', 'JROB - 学術情報リポジトリデータベース', and 'NII-REO - 電子リソースリポジトリ'.

J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>)

Google Scholar (<https://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja>)

外国語の論文を探す場合は

PubMed (<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/>)

EBSCOhost

CINAHL

Web of science 等々

引用文献リスト

本文内で引用したのが引用文献。参考となる資料として論文の最後に紹介するのが参考文献(通常不要)。引用文献の記載方法は投稿する雑誌によりことなるため要確認(文中の引用方法についても異なる)。

直接引用と要約引用

直接引用

= 引用文献の一部をそのまま引用すること

通常「 」で括って表示する。

間接(要約)引用

= 引用文献の内容を要約して記述する。

通常「 」などはつけない。

日本社会福祉学会 機関紙「社会福祉学」執筆要領(引用法) [write_quotation.pdf\(jssw.jp\)](#)

老年社会科学会 執筆要領 [日本老年社会科学会\(rounenshakai.org\)](#)

堀米史一 (2017) 介護老人福祉施設における転倒の発生要因・事故防止策・活動参加の取り組みの関連性 社会医学研究 第34巻2号 57-68 から目的 (introduction) と文献を引用

1. 目的

介護サービス提供の場は利用者にとっての生活の場であり、利用者一人ひとは生活者であることから、自由、自立、自己決定の尊重が求められる。特に介護施設においては集団生活の場であることから様々な制約や制限を求められることもあるが、利用者一人ひとりに対して尊厳をもって安全にサービスが提供されなければならない。この施設におけるサービスについて全国社会福祉施設経営協議会¹⁾は「福祉施設におけるリスクマネジメントの在り方に関する検討会」の中でリスクマネジメントの側面は非常に多種多様であることを述べたうえで、顧客や利用者に対する安全確保を、サービスの質の向上に組み込んだ取り組みとして行うとサービス管理の側面が強くなるとしている。近年では多くの介護サービス提供事業者がそれぞれの組織において事故報告やインシデント報告の取り組みを行い、事故防止策を導入し利用者の安全の確保に努めながら、利用者の自由、自立、自己決定の尊重にも配慮をおこなっている現状であるが、利用者の身体的・精神的な機能低下などもあり介護事故の発生全てを防止することは困難な状況であり、利用者の安全と自由、自立、自己決定の尊重との関係をどのように考えるかは重要な問題となっている。

また介護事故の発生に関して永和²⁾は高齢者の事故が最も多く発生する施設サービスは介護老人福祉施設であると指摘しているが、介護施設サービスにおいて従来は高齢者の転倒・転落防止の理由から身体拘束が行われてきたが、身体拘束により利用者に身体的弊害・精神的弊害・社会的弊害がもたらされ、身体拘束の悪循環による二次的・三次的な障害が生じる可能性があるとし、現在は身体拘束が原則禁止となっている。さらに河野ら³⁾は「安静状態による廃用症候群や社会的活動の機会の喪失など、のちの生活に多大な影響をあたえるおそれがある」と指摘されており、堀米⁴⁾の介護老人福祉施設職員を対象とした調査では利用者への身体拘束、移動制限を行わずに利用者へ外出支援などを提供し活動範囲の拡大をすることで利用者の活動量の増加につながり、介護事故・インシデントの危険性が増加しない可能性が示唆されている。

その他の先行研究^{5,6,7,8,9,10)}においても介護施設では転倒事故が介護事故の中でもっとも多いことが指摘されているが、近年のリスクマネジメントや事故防止に対する意識の向上から高齢者の転倒事故に関する調査は増加傾向にある。しかし松井ら¹¹⁾が施設利用者全数調査を実施した研究が少ないと指摘しているように、今までの介護事故・インシデントの調査研究では介護事故やインシデントが発生したケースを集計して分析する後ろ向き調査の方法が多く、施設におけるサービス利用者全数を対象とし質問紙を用いて行う前向き調査から「介護事故・インシデントの発生要因」と「事故防止策」、「事故防止策以外で事故防止につながる取り組み」がどのような位置づけになっているのかを明らかにすることが必要である。そこで本研究では先行研究において指摘されている高齢者が最も起こしやすい事故である転倒に焦点を絞り、介護老人福祉施設利用者の「転倒の発生要因」と「事故防止策」、「事故防止策以外の事故防止につながる取り組み」として「外

出の頻度」と「施設内の移動制限」に焦点を当て、関連性を明らかにすることを目的とした。

文献

- 1) 全国社会福祉施設経営者協議会. 「福祉施設におけるリスクマネジメントのあり方に関する検討委員会；検討状況報告」.2001
- 2) 永和良之輔, 介護事故の現状と問題点. 佛教大学社会福祉学部論集.2011;7,39-56.
- 3) 河野禎之, 山中克夫, 松田修他: 短期前向き調査による高齢者介護施設における転倒・転落事故の状況および背景要因に関する事例研究. 日本認知症ケア学会誌 2007; 6(1), 59-68
- 4) 堀米史一. 介護老人福祉施設における介護事故に関するリスクマネジメントの質的研究. 社会医学研究. 2016; 33(1), 71-82.
- 5) Hausdorff J. M., Rios D. A., & Edelberg H. K. Gait Variability and Fall Risk in Community-living Older Adults, A 1-Year Prospective Study. *Arch phys Med Rehabil*, 2001; 82 (8), 1050-1056.
- 6) Rubenstein L. Z., Josephson K. R., & Robbins A. S. Falls in the nursing home. *Ann Intern Med*, 1994; 121 (6), 442-451.
- 7) Oliver D., Daly F., Martin F.C., & McMurdo M. E. T. Risk factors and risk assessment tools for falls in hospital in-patients, a systematic review. *Age and Ageing*, 2004; 33 (2), 122-130.
- 8) Day L., Fildes B., Gordon I., Fitzharris M., Flamer H., & Lord S. Randomised factorial trial of falls prevention among older people living in their own homes. *BMJ*, 2002; 325 (20), 1-6.
- 9) 鈴木みずえ, 山田紀代美, 高橋秀人他. 高齢者の転倒状況と転倒後の身体的変化に関する調査研究, 日本看護科学会誌. 1993; 13(2), 10-19.
- 10) Tinetti M. E., & Williams C. S. Falls, injuries due to falls, and the risk of admission to a nursing home, *The New England Journal of Medicine*. 1997; 337 (18), 1279-1284.
- 11) 松井典子, 須貝佑一. わが国における施設高齢者の転倒事故に関する文献的検討, 老年精神医学雑誌. 2006; 17 (1), 65-74

資料 5

任貞美 (2016) 高齢者虐待の定義および概念を確立するための研究課題の検討 社会福祉学 第 57 巻第 2 号 15-28 から文献の検索方法を引用

「本研究における研究課題は、これまでの日本の高齢者逆他の定義に関連する先行研究において、高齢者虐待を定義するうえでの課題とその課題が生ずる背景要因について、どのように分析し、説明しているか、という点である。

そこで虐待定義の課題と関連する文献を検索するために CiNii、医中誌のデータベースを用いて、『高齢者』『虐待』『定義』を組み合わせて検索を行った。次に、『虐待』と類似した用語である『不適切な関わり』『不適切なケア』『不適切な介護』『maltreatment』『mistreatment』について、たとえば『高齢者』と『不適切な関わり』、『高齢者』と『不適切なケア』などで組み合わせて再度検索を行い、それらを合計した結果、49 件の文献を検索した (2014 年 1 月時点)。分析の対象とする文献を選定するために論文のタイトルや抄録を検討し、必要に応じて原文にあたり内容を確認した。

その結果、49 件の文献のうち、高齢者虐待の定義と関連のない文献 15 件、学術論文ではない文献 9 件、検索の過程で重複した 7 件の文献を除外して 18 件の文献を抽出した。さらに、この 18 件の文献における引用文献から高齢者虐待の定義を挙げていた 11 件の文献を追加し、合計 29 件の文献になった。」

整理すると

